季刊
quarterly
intercultural

iichiko

a journal for transdisciplinary studies of pratiques

特集 ラテンアメリカの文化学
CULTURE OF LATIN AMERICA

Jorge Castañeda ホルヘ・カスタニェダ
Gregory Zambrano グレゴリー・サンブラーノ
Juan Gelman フアン・ヘルマン
Masateru Ito 伊藤昌輝
Yumio Awa 阿波弓夫
Cristina Rascón クリスティーナ・ラスコン
Shigeko Ito 伊藤滋子
Hiroaki Idaka 伊高浩昭
Masami Morikawa 森川雅美
Yoshiki Kobayashi 小林芳樹
Ko'ichiro Goto 後藤宏一郎
Taro Zorrilla ソリージャ・タロウ
Hiroko Katsura 桂 宏子
Tetsuji Yamamoto 山本哲士

WINTER
2010
NO.105

Director Tetsuji Yamamoto〔Fondation de École des Hautes Études en Sciences Culturelles (Genève)〕

Producer & Art Director Hideya Kawakita〔Japan BÉLIER Art Center ／ Tokyo National University of Fine Arts & Music〕

Special Advisors
Roger Chartier〔France〕
Alfredo López-Austin〔México〕
Nancy Chodorow〔USA〕
Jack Goody〔UK〕
Jacques Bouveresse〔France〕
Attilio Petruccioli〔Italy〕
Edward G. Andrew〔Canada〕
Héctor Aguilar Camin〔México〕
John Urry〔UK〕
Paul Rabinow〔USA〕

International Correspondents
Yumio Awa〔Tokio-México〕
Nobuko Miyoshi〔Paris〕

Editorial Office
Editions iichiko
Ginza Orior Bldg., 5F, 13-14, Ginza 5-chome,
Chuo-ku, Tokyo, JAPAN. phone：+81-3-3580-7784

Publishers
Hideya Kawakita
Japan BÉLIER Art Center

Published with the assistance of Sanwa Shurui Co., Ltd.
http://www.iichiko.co.jp/

Editorial Adviser 阿波弓夫 Yumio Awa
Editorial Staff
Administration 中宮厚志 Hiroshi Nakamiya
Editor 柳田京子 Kyoko Yanagida
Design 栗林成光 Seiko Kuribayashi
Cover Photo 平地 勲 Isao Hirachi
Cooperation 文化科学高等研究院
École des Hautes Études en Sciences Culturelles〔Tokyo ／ Genève〕

Printing 凸版印刷 Toppan Printing Co.,Ltd.

iichiko quarterly, a journal for transdisciplinary studies of pratiques, is published by Editions iichiko since 1986. The general purpose of this journal is to foster research, advanced and interdisciplinarian, on cultural and social pratiques.

Copies of the articles may be made for personal or internal use. No article or any part there of may be reproduced without the express permission of its author and Editions iichiko.

Overseas Distribution
Japan Publications Trading Co., Ltd.〔P. O. Box 5030 Tokyo International〕
Maruzen Co., Ltd.〔P. O. Box 5050 Tokyo International〕

季刊 iichiko
quarterly intercultural

No.105 WINTER 2010
2010年1月20日発行

企画 三和酒類株式会社
発行所 日本ベリエールアートセンター
発行人 河北秀也
編集・研究ディレクター 山本哲士
お問合せ先 〒108-0023 東京都港区芝浦2-6-11 PT芝浦BWアーバンウィング1405
E.H.E.S.C.「季刊 iichiko」第二編集室
TEL03(3580)7784 FAX03(5730)6084

©Editions iichiko

Director's Note

世界が大転換しているとき、ラテンアメリカもまきこまれている激変はどちらへむいているのであろうか？　世界史上、ラテンアメリカは先導的な働きをしてきている。その実像は日本でははとんどとらえられていない、ということはつまり日本自体がどこへいくのかつかみえていないということだ。商品経済の不可避の浸透に浸食されながらも、しかし、バナキュラーな深い存在を消し去ることのない場所。それは西欧的言説では語られえない。

言語を文法的に正確に、また辞書的に他言語から翻訳して語っても、それは相手にとどかない。言語は沈黙の部分をもっている、その沈黙をいかに語りえるか、語りえないか、そこにリズムとともに交通するものがある。つまり、外国語としての言語ではない、自分の言語として表出するということだ。そこから、ようやく当在の場所がかすかに見えてくる。本号編集の阿波弓夫氏は、スペイン語を喋っているとき、日本語で語っているときよりも氏自身になる。そういう氏が信頼する方々に依頼して本特集が組まれた。第4号でメキシコ特集を組んで以来、オクタビオ・パス、ガルシア・マルケス、1492年など、何度も本誌は阿波氏の協力をえてラテンアメリカの特集をくんできたが、いまここで「現在」をかいまみる試みをした。メキシコで出会ってから、もうわたしと彼とは30年以上のお付き合いだ。

近年、20年来、30年来という交流の方々と協働することが多くなってきている。かつてよりもう一回り回って新たな次元が開かれてきているようだが、まだはっきりとはしていない。しかし何事かが、確実に蠢いている。

新たな動きはしかし同時に旧来のものごとの強さをも反動的に強いられる。とくに、商品の物象化の強度は相当なものであり、その根拠は、実体 substance と賃労働のふたつの実在という虚構にささえられていることがはっきりとしてきた。実体は客体の分離した実態となり、不動だと転倒され、賃労働は自分をなくした規則従属が主体であると分離させて創造行為を不能化させている。価値形式までが価値実体へと逆転化されているところまで、物象化が進行している。するとビジョンは妄想だとされ、創造活動はわがままな勝手行動だとみなされ、なにもしない、できないことが現実のリアルさだとされていく。転換が激変すればするほど、逆対応の反動が強まっていく。アジア的といえる段階が、可能条件でなく制限条件へと転じられていく事態だ。ここを、ラテンアメリカはどう脱出していくか、日本はどう先端性へと開いていけるかである。

コンビビアルなホスピタリティが、そこをつきぬけていく技術原理となることだけは、確かである。語りであり、感覚であり、情緒である、述語世界の表出だ。主語的意識や客観認識からはこぼれ落ちていくものである。

編集・研究ディレクター　山本哲士

Column 3 「帰って見た南米」

メキシコを動かす移民

La fe del emigrante, mueve el país

ソリージャ・タロウ
Taro Zorrilla

●そりーじゃ・たろう
1980年メキシコシティ生まれ。建築家。早稲田大学理工学部建築学科卒業。2007年 Atelier Taro 設立、現在に至る。メキシコ南部のコーヒー農園に働く先住民労働者のための住居施設や、芸術家の工房の設計を手がけている。

都市への移動

メキシコの総人口の27%は最低賃金の日当52ペソ（354円相当）で生活している貧困層が占めています。大部分は地方在住者で、個性豊かな伝統をもってはいますが、経済的に貧しい生活を強いられ、都市部に見られる先進国のような光景とは対照的な日常を送っています。

地方では、上下水や道路が未整備で、農業や産業が機能しないため、家族とともに労働者として都市へ移住する人々が絶えません。その結果、メキシコ首都圏には国の総人口の20%にあたる1923万人が密集しています。

都市に移住した彼らは、生まれ育った環境や教育の観点から伝統、慣習、宗教を守る生活をし、それは日常の事細かな部分に浮き彫りとなります。（本誌107ページ写真・上）その背景は「貧困の文化」（オスカー・ルイス著）に克明に描写されています。

アメリカへの移民

地方からアメリカ合衆国への労働移民は1900年代の初頭より始まり、1970年代におけるアメリカでの低賃金労働者の需要、1995年のメキシコ通貨危機が拍車を掛け、隣国への移住が、一般的な労働手段となりました。働き盛りの男子はアメリカで単純労働の職を得、妻はメキシコで子供たちの面倒を見ながら数年に一度の父親の帰りを待ちます。

現在は1170万人の移民メキシコ人と1940万人の移民の子孫がアメリカに住み、アフリカ系移民の総数を越えました。カリフォルニア州における人口は432万人で、メキシコ首都圏に次ぐ世界で2番目の規模のヒスパニック都市を形成しています。2005年からは石油産業、観光業を押さえ、アメリカへ移民した家族からの仕送りが国の外貨収入の筆頭となり、その額は251億ドルにのぼりました。

居住はメキシコ、労働はアメリカというように日々国境の都市を行き来する生活が日常化している現在でさえも、アメリカ政府は、国境の壁をより強固なものにし、人々の動きを制御しようとしています。そのような環境の中、生死をかける移住を繰り返す移民たちの力は両国を底辺から動かしていると言えます。（本誌106ページ写真）

メキシコ人の夢

移民の原動力は、経済的利点の魅力、そして各自が持つ夢と希望です。教育を受けていない彼らは旅券や現金、身の回りのものをほとんど持たずに、知人や家族を頼ってアメリカへと赴きます。砂漠で命を落とす危険を冒し、国境を歩いて越えたり、不法移民の移送仲介者に大金を払って空路や陸路で隣国へと渡ってゆきます。

村にいる限り、彼らは一生バラックの家で生活するのが現状です。アメリカでは、メキシコの最低賃金の8倍から16倍の収入を得られます。移民は、現地で切り詰めた生活をし、貯金をして、現金や家電製品などを独自のルートで家族へと送ります。それらの積み重ねで作られた家がメキシコ国内の貧困地帯に数多くあります。

移民した彼らは、アメリカで裕福な生活を目にします。家族がいつかその環境で生活できることを夢見て一心不乱に働き、気に入った家の写真や雑誌の設計図面、または手書きした図面をファックスや郵便で送って、夢の家を作ろうとします。

2000年代の移民は、2、3年で必要な資金を貯めつつ同時進行で親戚と妻を頼りに計画的に家を作りあげます。アメリカンスタイルの家の大枠の内部は、メキシコの家族の感覚で仕上げられますが、家族はアメリカの生活を知らないため、地方土着の慣習が、反映されていきます。時折、命をかけてメキシコに戻ってくる夫も建築行程を監修しながら、完成を目指します。こうして見渡す限りの荒野に、突如として夢の家が建ち上がります。居住に十分な環境が整ったとき大半の家族は地方へと帰ってきます。（本誌107ページ写真・中）

しかし、将来メキシコに帰郷するはずだった夫婦の中には、アメリカで生まれ育った子供達の要望で、アメリカに残らざるおえない人々もいます。途中まで作られたにも関わらずそのまま放棄された大きな家々が地方には多くあります。

メキシコの将来像

アメリカでは経済的な価値観が優先させられ、人間関係と生活が金銭に左右させられることが数多くあります。メキシコでは、全人口の92%が3親等までの家族と暮らし、人生を一家と過ごすため、長い土着的な歴史と、多様な人間的価値観や生活様式が引き継がれていく強い力が働いています。

多くの問題を抱えながらも人間関係を重視する地方移民たちの本当の夢の実現を目の当たりにすると、物質的にも精神的にも恵まれた生活を求めている人々の姿が現れます。それは私たちが忘れてしまいそうな何か大切なことを思い起こさせてくれます。（本誌107ページ写真・下）

Estados Unidos Mexicanos

メキシコ合衆国

文＝ソリージャ・タロウ Taro Zorrilla
（本誌 91 頁にも関連コラムを寄稿）
写真＝はぎのみほ

「メキシコから見るアメリカとの国境」
古い壁より「2006 年安全フェンス法」で作られた国境の壁を覗く。厳重な警備や過酷な自然下で、1994 年から 2007 年に、4859 名が国境沿いで亡くなっている。 彼らを追悼するための十字架がメキシコ側にかけられている。

「地方から都市への移民」
メキシコ市郊外に広がる、低所得者用建て売り住戸。地方移民により持ち込まれた習慣が、歴史の希薄な土地を染めていく。住宅に入らない巡礼の為の十字架、セルフビルドの拡張工事と防犯用の柵。

「地方からアメリカへの移民」
イダルゴ州の農村では、毎年人口の10%がアメリカへと移民する。彼らは言う、『アメリカは夢を見に行く国、メキシコは夢を実現する国』。セルフビルドで、見てきた夢の家が立ち上がる。

「地方から都市へ、そしてアメリカへの移民」
日々拡張する都市の際。一階は地方より移民した親による商店。二階は、アメリカへ移民した息子達による住居。複雑化する習慣の違いは分離しながらも家族の力で共存する。